

## オスプレイの米軍横田基地への配備と訓練飛行の撤回を求める意見書

安倍内閣は、8月22日、在日米軍が10月1日に横田基地に輸送機C V22オスプレイ5機を正式配備すると発表した。横田基地への配備は2019年10月以降となっていたが、米軍が2018年4月に前倒し配備を発表し、具体的な時期の検討を進めていた。今後さらに配備をふやし、2024年後頃までに計10機（要員約450人）を配備する計画である。

C V22は、敵地に潜入し人質を奪還する任務などを担う特殊作戦部隊の運搬に用いられる。このためMV22に比べ夜間飛行や、地形に沿って低く飛ぶ能力が強化されている。横田配備機も、低空飛行訓練や小銃・重機関銃の射撃訓練を実施していくと見られる。六本木ヘリポート基地を使用することになれば、オスプレイは、横田基地から、立川市、国分寺市、小金井市、三鷹市、杉並区、世田谷区、渋谷区の上空を飛び交うことになる。

オスプレイは、1989年の飛行開始以来墜落事故を繰り返し、多くの乗務員が命を失っている。2015年5月18日（日本時間）に、MV22オスプレイが米国ハワイ州において、乗務員に死亡者及び多数の負傷者を出す事故を起こしたことが報道された。墜落事故が後を絶たないことから「空飛ぶ棺桶」とも呼ばれているオスプレイは、本年4月5日、「一時的立ち寄り」と称して横田基地に5機のC V22が飛来、その後もたびたび同基地を離着陸し各地で傍若無人の飛行を繰り返している。6月、横田から米軍嘉手納基地に向かう途中だった1機が奄美空港に緊急着陸するというトラブルも起こしている。

横田基地は、人口が密集した市街地にあり、基地周辺は住宅や学校や病院などの公共的施設が多く存在している。墜落事故になれば、人命にかかわる大惨事となることは必至である。市民の命、生活を大きく脅かすこととなる。こうしたゾーンを低空飛行することを米国内法は禁じており、日本国内でも禁止するのが当然である。

C V22オスプレイが配備されれば、横田基地が海外戦闘の「出撃基地」に変貌することは、自明の理である。そうなれば、敵国の標的になることは軍事の常識である。

米軍横田基地（福生市など東京都多摩地域5市1町）の所属航空機が、首都圏周辺上空で9本の訓練飛行ルートを設定し、低空飛行や編隊飛行訓練を実施していることが、米軍の資料で明らかになった。北関東上空を中心に首都圏では、現在でも横田基地所属の米軍機C130輸送機による低空・編隊飛行訓練が繰り返され、騒音被害や墜落の危険性が増大している。

よって、本市議会は、国会及び政府に対し、日米地位協定を日本の領域主権が行使できるよう直ちに抜本的に見直すことを米国政府に求めるとともに、オスプレイの横田基地への配備及び離発着訓練の中止を強く要望する。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成30年9月27日

三鷹市議会議長 宍戸 治 重